

2017年度 野外実習報告（1）

探究科学科1年は、観察力向上を目指し、立山自然観察実習・能登臨海実習のいずれかに行ってきました。

You see, but you do not observe. The distinction is clear.

「君は見ているが、観察していない。その違いは歴然だよ。」

by Sherlock Holmes（『ボヘミアの醜聞』より）

立山自然観察実習（7/23～7/24 1泊2日）

両日とも雨天。雨風があるととても寒い過酷な環境下での実習となりましたが、ブナの幹に雨水が流れるところやサンカヨウの花が濡れて透明になっているところ（右写真）など、雨天ならではの観察ができました。



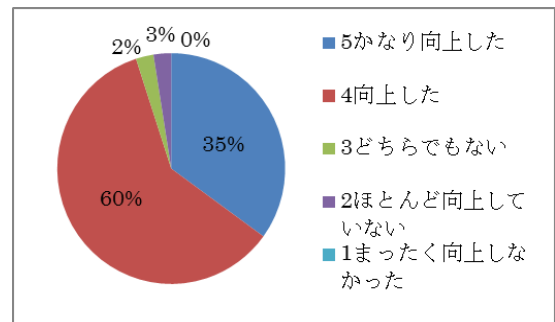
実習内容

7/23 (日)	美女平 * 植物群落の階層構造 * ブナのコケと積雪深 * タテヤマスギの葉の感触 * タテヤマスギの栄養生殖 * タテヤマスギの樹形と積雪深 * タテヤマスギの成長量 天体観察（西村先生の講話）	* ブナ林の樹木の戦略 * 地表の落ち葉
7/24 (月)	弥陀ヶ原 * 池塘調査 * オオシラビソ<偏形樹(旗形樹形)と風向の関係> 室堂 * 高山植物調査 * ハイマツの植生 * ハイマツの成長量	
7/25 (火)	事後学習（校内で実施） * レポート（ポスター）作成	

実施後の感想・アンケート結果

- ・ 植生や植物の生存戦略はとても興味深いものだった。（複数）
- ・ 身近にある自然に関心が高まった。家で育てている植物などにも目を向けて調べていきたい。
- ・ 「見る」と「観察」は違うことを今回の実習で学んだ。
- ・ これからの探究活動に必要な「積極的に知る」という気持ちを感じることができた。

Q. 実習を通して、観察力は向上しましたか。



ナチュラリストの志村先生、水野先生、日下先生、富山県天文学会の西村先生に感謝申し上げます。

2017年度 野外実習報告（2）

探究科学科1年は、観察力向上を目指し、立山自然観察実習・能登臨海実習のいずれかに行ってきました。

You see, but you do not observe. The distinction is clear.

「君は見ているが、観察していない。その違いは歴然だよ。」

by Sherlock Holmes（『ボヘミアの醜聞』より）

能登臨海実習（7/17～7/19 2泊3日）

磯採集では波が思ったより高く、採集するのが大変でした。それでもイトマキヒトデやクモヒトデ、アオウミウシが採集できて楽しかったです。大学の先生の講義も面白く、海の生物の多様性&不思議を満喫しました。



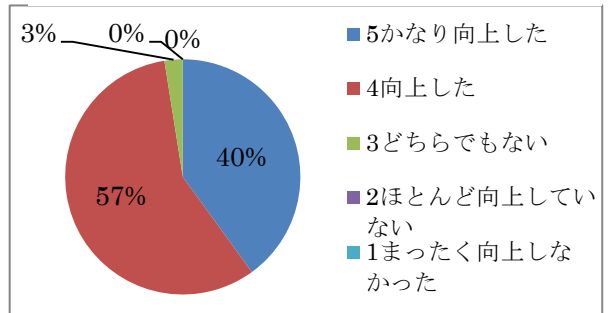
実習内容

7/17 (月)	講義 1・・・『生物の分類について』 実習 1・・・磯採集 実習 2・・・磯の動物の分類実習 実習 3・・・研究(1)（テーマ設定、計画） 実習 4・・・集魚灯による海の観察
7/18 (火)	実習 3・・・研究(2)（実験、観察） 実習 5・・・乗船実習 実習 3・・・研究(3)（実験、観察、まとめ） 実習 6・・・イカの解剖実習 実習 3・・・研究(4)（まとめ、発表準備）
7/19 (水)	実習 3・・・研究(5)（発表、質疑応答） 講義 2・・・『動物の不思議』

実施後の感想・アンケート結果

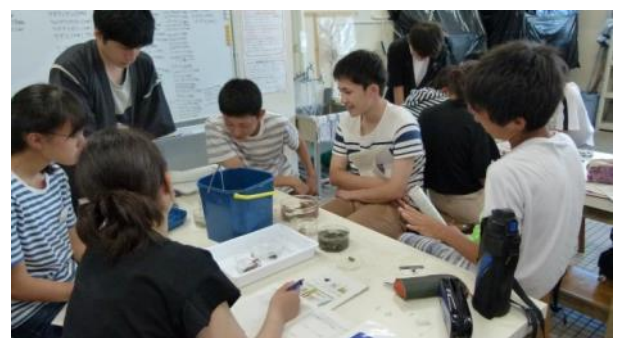
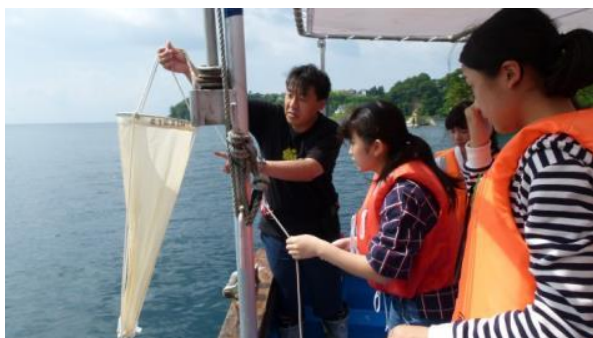
- ・今まで見たことも聞いたこともない生物に出会えてよかった。はじめは、これらの生物にかなり抵抗があったけれど、今となっては愛しく感じる。時間がなく、すべての生物の実験や観察ができなかったのが心残りだ。
- ・一つの生物の一つのことを調べるだけでも奥が深かった。
- ・研究すること自体に興味をもった。
- ・実習全てがとても面白かった。

Q. 実習を通して、観察力は向上しましたか。



研究テーマ一覧

1班	クモヒトデのうでの謎	5班	ヤドカリ、宿を借りる。
2班	ヒトデの多様性から見る進化の過程	6班	ヒトデは迷わない
3班	ホヤとカイメンの食事法	7班	花より海鼠
4班	クモヒトデの移動の目的と方向	8班	ウミシダの動きは刺激次第!



金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設長・教授の鈴木先生、職員の方々および能登里海教育研究所博士研究員の浦田先生に感謝申し上げます。